

はじめに

本講義の目的

- 現代世界における倫理的課題を知る。
- 国際世界においてなされる倫理的判断の思想的背景としてのキリスト教を知る。
- 倫理と宗教の関係について考える。
- 宗教内部における保守派とリベラル派の葛藤について理解する
- → [シラバス](#) (小原克博 On-Line)

2

本講義の構成

- キリスト教倫理とは
- 生命倫理の諸問題
- 社会倫理の諸問題
- 環境倫理の諸問題
- まとめ: 統合的な視点を求めて

3

キリスト教倫理とは

- 1 キリスト教倫理の形成
- 2 キリスト教倫理の価値基準
- 3 科学技術時代の倫理

キリスト教倫理の形成

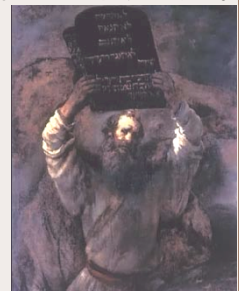
- 信仰と倫理
 - 固有の社会的・文化的コンテキストにおける信仰的応答
- パウロの場合
 - 偶像に供えられた肉についての食事規定をめぐる倫理的葛藤(第1コリント書8章)
 - 「その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです」(8:11)
 - 行為の是非が問題となっているのではない。

5

キリスト教倫理の価値基準

ここでは以下のものを事例として取り上げる。

- ① 史的イエス
- ② モーセの十戒
- ③ 黄金律



レンブラント作「十戒」

① 史的イエス

- イエスはどのような人物であったか？
- 「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」(マタイ5:39)
- 「群衆はその教えに非常に驚いた」(マタイ7:28)
- 「見失った羊」のたとえ(ルカ15:1-7)
 - イエスの倫理と共同体の倫理


7

② モーセの十戒

1. ヤハウェ以外の神々を信仰してはならない
2. 偶像崇拝をしてはならない
3. 神の名をみだりに唱えてはならない
4. 安息日を守らなくてはならない
5. 父と母を敬え
6. **殺してはならない**
7. 姦淫してはならない
8. 盗んではならない
9. 偽証してはならない
10. 隣人の財産や妻を欲してはならない

8

③ 黄金律

- 「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」(マタイ7:12、ルカ6:31)
 - 「人にしてもらいたくないことは、人にもするな」(『論語』他)
- 
- バーナード・ショー(1856-1950)の皮肉「あなたが他の人々にこうして欲しいと思うのと同じ事を、他の人々にするな。なぜなら、彼らの趣味(tastes)はあなたの趣味と同じではないかもしれないのだから」
 - パターナリズムの問題

9

科学技術時代の倫理

- 倫理とは？
 - 選択可能なものの中から(当事者にとって)最善のものを選択する方法を示す。
 - 可能な限りの選択可能性を示さなければ、結果的に、誘導・強制したのと同じになる(パターナリズムの危険性)

10

技術と倫理

- 潜在的マイナス効果を悪用させないための倫理が必要。
- 潜在的プラス効果を妨害させないための倫理が必要。

11

ローカル・スタンダードとグローバル・スタンダード

- 価値観は、閉鎖系と開放系の相互作用によって形成される。
- グローバル・スタンダードの効用と問題点
 - (+)ローカル・スタンダードの相対化
 - (-)欧米中心主義・先進国中心主義の蔓延
- グローカルな視点
 - 「最も小さい者」(マタイ25:40、45)に対する説明責任

12